



消防本部予防課  
(☎83-3556)

3月1日(出)～7日(金)は春の火災予防運動です

### 防火標語

「火は見てる あなたが離れる その時を」  
(全国統一防火標語)

「二度三度 見廻る我が家の 防火習慣」  
(山口県防火標語)

### 重点目標

- (1) 住宅防火対策の推進
- (2) 放火火災予防対策の推進
- (3) 林野等火災予防対策の推進
- (4) 事業所の防火安全対策の推進



## 住宅防火 いのちを守る「3つの習慣」「4つの対策」

### ▶ 3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

### ▶ 4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器等を設置する。
- 寝具や衣類からの火災を防ぐために、防災製品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

## きょういく掲示板

### 言葉は「ことだま」…品位ある言葉遣いを

元来、日本人は、言葉には魂とか靈魂が宿っていると考えていた民族だそうです。だから言魂(言霊)と書いて『ことだま』と読み、それが『ことば』の由来になったという説もあります。同じ内容を伝達するにも、話し手の感情や使っている語句によって、あるいは聞き手の感じ方によって、『ことば』に品位を感じたり、不快に感じて互いに傷つけ合うこともあるわけです。

フランス人はフランス語に誇りを持ち、大切にしている国民で、親は娘が嫁ぐ時に「財産はないが、我が娘にはきれいな言葉だけは身につけてやっています。」と誇らしげに言うことがあるそうです。また、アメリカでは「Please.」「Thank you.」「Excuse me.」の3つは徹底して子どもに教え、しつけるのだそうです。一方、『ことだま』の国、日本はどうでしょう？ 時や場面、話し相手によって使い分けられていた独特の美しい丁寧語や尊敬語、コミュニケーションの手段としての本来的な意味が薄れ、新種の言葉遊びばかりが大きくなりすぎて、

正しい日本語の表現や自然な言葉遣いが失われてはいないでしょうか。

「KY(「空気が読めない」の意)」などではなく、「ありがとう。すみません。おかげさま。もったいない。」美しい日本語が流行してほしいものです。【学校教育課】



### ⑩「提案型公共サービス民営化」への取組み

昨今、行政のスリム化や質の向上、コスト削減のための様々な提案や取組みがなされています。民間団体が公共施設の管理を行う指定管理者制度もそういった取組みの一つで、また情報処理システムの構築や維持、ゴミ処理業務の一部を外部委託する等、公共サービスを担う民間企業・団体が増加し、公共における民間の領域は年々拡大してきており、行政が公共の分野を独占するという事はなくなりました。

提案型公共サービス民営化制度とは、こうした背景から、民間と行政の役割分担を根本的に見直しながら、対等の立場で協働し、まちづくりを行っていかうとする新しいしくみです。具体的には、法的に行政が直接実施しなければならないものなど、民間事業者に移管することが適当でないもの等を除き、本市が実施している事務事業のすべてをリストアップして、まず公開します。そして民間からの提案を募集し、サービスの向上やコストの削減に有益と認められるものについて、その提案に基づき事務事業を民間に任せていこうとする制度です。

厳しい財政状況におかれスリムで効率的な行政を目指す本市にとって、提案型公共サービス民営化を有効な制度として、行政改革大綱アクションプランにも掲げ、来年度の導入に向け、現在、事務事業のリスト化等の準備作業に取り組んでいます。

【行政改革課 ☎ 82-1135】